

令和 7 年度（2025 年度）第 1 回公立大学法人熊本県立大学理事会 議 事 録

日 時：令和 7 年（2025 年）6 月 25 日（水）午後 2 時 58 分～午後 3 時 00 分

場 所：公立大学法人熊本県立大学大会議室

出 席：

＜理事＞ 理事長 黒田 忠広
副理事長（学長）堤 裕昭
理事（副学長）鈴木 元
理事（事務局長）梅川 日出樹
理事 櫻井 一郎

＜監事＞ 監事 吉川 榮一
監事 本田 悟士

＜事務局＞ 久保田次長、堀口教務入試課長、國武学生支援課長、木山企画調整室長、柳田総務課長、武末図書館事務長、犬塚地域・研究連携センター事務長、木村デジタルイノベーション推進センター事務長、平松国際教育交流センター事務長、井上監査室長、山本総務課総務班長、笥総務課財務班長、松尾総務課財務班参事、福屋総務課財務班主任主事、太田総務課総務班参事、小野企画調整室員

1 開会（進行：久保田事務局次長）

2 理事長あいさつ

3 議題（議長：黒田理事長）

（1）審議事項

①第 4 期中期計画・令和 6 年度計画に関する自己点検・評価(案)等について

事務局から、資料 1 に基づき、中期計画・年度計画に関する自己点検・評価(案)等について、全 45 項目中、S～C の 4 段階評価で A 評価が 42 項目、B 評価が 3 項目であり、B 評価の 3 項目は、① T0EIC® IP テストの学生受験者実績は 695 名となり、評価指標「T0EIC® IP テスト受験者数：700 名以上」には届いていないこと、②2－4 年次学生の指標「T0EFL® 550 点以上 20%」のところ、達成率は、6.5%となり、評価指標に届いていないこと、③R7 年度科学研究費補助金は、新規採択件数が 5 件で目標の半数に止まったことによるものだが、ほぼ順調に実施できたと総括している旨の説明があった。

審議の結果、案のとおり承認された。

②令和 6 年度決算について

事務局から、資料 2 に基づき、令和 6 年度決算について、貸借対照表、損益計算書、キャッシュ・フロー計算書、損失の処分に関する書類(案)等により説明があった。

比較損益計算書における当期総利益は、前年度の総利益より 22 億 66 百万円の減となり、当期総損失は 15 百万円となった。当期総損失は、令和 5 年度から適用された地方独立行政法人会計基準等の改定により損益均衡を図る資産見返勘定が廃止された影響が大きい。損失額については前中期目標期間繰越積立金取崩により補填される。以上の内容で県に承認を求めることになっている旨の説明があった。

続いて、吉川監事から独立監査人の監査報告書及び監査報告の説明があった。
審議の結果、案のとおり承認された。

[質疑]

(田中委員) 決算が厳しい内容であったようだが、詳しくご説明いただきたい。

(事務局) 令和5年度に会計基準が変更となり、より民間企業に近い会計基準によるものとなったが、令和6年度は資産の取得よりも減価償却が大きく上回ったことによるものが主な要因である。赤字になったとはいえ、大学運営に影響を及ぼすものではない。引き続き状況を注視して大学運営に取り組んでまいりたい。

(田中委員) 将来的には改善していくと理解してよろしいか。

(事務局) 年によって差があると思う。今後も健全な経営に取り組んでいく。

(田中委員) バランスや大学の目的を失することなく、健全な経営をお願いしたい。

(永田委員) 過去5年間の総利益はどうなっているか。

(事務局) 令和5年度は会計基準変更による20億円超の臨時利益が生じているが、変更前の令和4年度以前は、概ね3千万円の利益ということで推移している。

(2) 報告事項

① 熊本県立大学未来基金の令和6年度(2024年度)収支状況について

事務局から、資料6に基づき、熊本県立大学未来基金の収支状況について、収入状況、支出状況の報告があった。

4 その他

- 次回理事会は、令和7年(2025年)9月17日(水)の経営会議終了後に開催予定。

5 閉会

以 上